**シンチ検査及び医療被ばくに関する説明書**

【1.骨シンチとは】

弱い微量の放射線（ガンマ線）が発生する99mTc(99m-テクネシウム)という放射性医薬品を静脈へ注射して検査を行います。全身の骨の代謝状況を調べる検査で、がんの骨転移や外傷等による微小骨折など、X線検査ではわかりにくい様々な骨の状態を詳しく調べる検査です。骨の代謝とは、骨が常に古い骨を壊して新しい骨を作り直すことで、骨の強度や血中のカルシウムの値を調節するプロセスです。

【2.骨シンチの流れ】

1. 放射性医薬品の注射

予約時間までに1階総合受付で受付を済ませて2階放射線診断科にお越し下さい。放射線診断科の診察後に地下1階核医学検査室で放射性医薬品を静脈に注射します。

1. 撮影

注射から2～3時間後に核医学検査室で撮影します。検査用ベッドに仰向けに寝た状態で約40～50分撮影します。

【3.前処置】

特にありません。

【4.確認事項】

次の項目に該当する方は職員にお申し出ください。

□妊娠しているまたは可能性がある方や授乳中の方 　 □狭いところが苦手な方

□お薬を服用中の方 □お薬でアレルギー反応を起したことがある方

□ペースメーカなどの装置や金属を体内に入れている方 　　 □血糖値測定器を上腕等に貼っている方

□2週間以内に検診で胃透視検査を受けた方　 　□2週間以内に核医学検査を受けた方

□オムツを使用されている方は換えのオムツをお持ちください 　 □長時間の仰向け姿勢が困難な方

【5．検査のキャンセル　と　診療情報提供書の事前送付　についてのお願い】

検査をキャンセルされる場合は、必ず当院の核医学検査室へご連絡ください。（紹介元医療機関へのご連絡もお願いします。）時間外や休日などで核医学検査室につながらない場合は放射線科当直PHSへご連絡ください。

キャンセルの連絡は検査日前日の14時までにお願いします。

・土日月が連休で火曜日が検査のときは金曜日の14時まで

・祝祭日が水曜日で木曜日が検査日の時は祝祭日前の火曜日14時までとなります。

◆検査に使用する放射性医薬品は患者様専用の高額なお薬です。以下の理由等で検査が中止になった場合は放射性医薬品代金(数万円)を実費負担していただく場合がありますのでご注意ください。

①　検査日当日にキャンセルされた場合やご連絡がなく検査を実施しなかった場合。

②　前処置や注意事項を守れなかった場合。

《連絡先》

公立八女総合病院　核医学検査室　　代表：0943-23-4131　（内線2053）平日8：30～17：00まで

時間外及び日祭日　放射線科当直PHS　（内線5304）

＜核医学検査電話予約時の診療情報提供書のFAX送付のお願い＞

当院では、当院受診歴がない患者様についての新規カルテ作成の待ち時間短縮、検査当日のスムーズな診療、検査薬の発注管理を目的とし、事前に診療情報提供書のFAX送付をお願いしております。患者様の氏名・生年月日、住所、連絡先を予約電話時に確認させていただくことがあります。患者サービス向上へのご理解・ご協力をお願いいたします。　検査前日までにFAXが未到着の場合、確認のお電話を差し上げますので、ご了承ください。

《診療情報提供書の事前FAX送信先》

患者支援センター 医療連携課

FAX 　0943-22-6929（直通）　　　　受付時間 　平日　8:30～17:00

【6.検査日当日に提出していただくもの】

・診療情報提供書　　・お薬手帳　　・保険証（マイナンバーカード）　　・診察券（当院受診歴有の方のみ）

・核医学検査の被ばくに関する説明書

【7.来院日時】

来院日時：　　　　　月　　　　　日　　　　　時　　　　　分

\*来院時間に遅れると検査を行えないことがありますのでご注意ください。

\*初診の方は電子カルテの作成など初診受付手続きに時間がかかる場合があります。

【8.核医学検査とは】

核医学検査（RI検査、シンチグラフィ）とは、放射性医薬品を体内に投与して、その薬から放出される放射線をガンマカメラという特殊なカメラで撮影して、臓器の機能や形態を調べる画像診断検査です。放射性医薬品は静脈注射や飲用して体内に投与します。放射性医薬品は特定の臓器や組織に集積する性質があり、その集まり方から病気の有無や状態、血流や代謝などの機能情報を調べることができます。﻿検査によっては、同一部位の繰り返し撮影、薬剤や運動による負荷をかける場合があります。また狭心症・心筋梗塞・心筋症などでは、定期的な検査をすることで、治療効果や病変の経過を観察し、最善の治療につなげることができます。

【9.検査の正当化】

　核医学検査では放射性医薬品を投与するため、放射線による被ばくを伴います。したがって、検査から得られる便益が被ばくのリスクを上回ると考えられる場合のみ検査を行います。放射線による被ばくをご理解の上、検査を受けて頂きますようお願いします。

【10.線量の最適化】

　核医学検査は検査の種類や撮影方法、患者様の体重に合わせて、医師が正しく診断できる画質を担保した放射性医薬品の投与量で検査を行わなければなりません。当院では日本放射線技師会や関連学会のガイドライン(診断参考レベル等)をもとに最適な放射性医薬品の投与量で検査を行い、放射線による被ばくを必要最小限にすることを実践しています。

【11.検査による被ばく】

　検査に使用する放射性医薬品の投与量(放射能)は撮影部位や撮影方法、患者様の体重などで異なるため、検査による被ばく線量はおよそ1～15mSvになります。一般的には100mSv以下の被ばくであれば検査を受けた人も受けなかった人も発癌率や遺伝的影響の差は無いと言われています。放射性医薬品の放射能は極微量で、半減期（元の放射線の強さが半分になるまでの時間）も数時間から8日程度です。投与後は主に尿や便から排泄され、短い時間で体内から消失します。﻿

当院にて実施される回数が多い検査の被ばく線量を下の表に示します。

●核医学検査被ばく線量　　　　　　　　　　　　　　　　　●被ばく線量の比較図

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 検査名 | 投与量(MBｑ) | 被ばく線量(mSv) |
| 脳血流シンチ(負荷あり) | 260 | 8.3 |
| 脳血流シンチ(負荷なし) | 130 | 4.2 |
| ダットスキャン | 195 | 4.9 |
| 心筋シンチ(負荷あり) | 114 | 15.9 |
| 骨シンチ | 784 | 3.4 |
| ガリウムシンチ | 114 | 11.4 |
| PET(60kg) | 270 | 5.13 |
| センチネルリンパ節シンチ | 37 | 0.34 |



【12.放射性薬品の副作用】

放射性医薬品投与による副作用は0.1％～数％の確率（10万件あたり0.9～2.7件）と非常にまれで、軽微から中等度のものがほとんどです。放射性医薬品の種類にもよりますが、紅斑・かゆみ・熱感・口内苦味感・血圧低下・徐脈・アナフィラキシーショック等の症状が確認されています。検査中は職員が患者様の状態を確認しており、症状が確認された場合は適宜対応します。検査中に何かしらの症状を感じましたら遠慮なく職員にお伝え下さい。

**検査の予定日： 　年 　月 　日( 　 )**

**説明日　　　　： 　年 　月 　日( 　 )**

**説明を行った医師：病院　　　　　　　　　　　　 　　診療科　　　　　　　　　　　　 氏名　　　　　　　　　　　　　　　　印**

**説明に同席した者：職種　　　　　　 　　　　　　　　氏名　　　　　　　　　　 　　　（自署）** ※記載なき場合は同席者なし

**私達は、前記について十分な説明を受け、理解いたしました。**

**説明を受けた人　：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（自署）　　　　　　　　　　　　 （患者との続柄）**